



●葉いもち防除の徹底を

いもち病は一度発生すると広範囲に感染が広がります。箱処理剤の使用により被害は少なくなっていますが、油断しないで防除の徹底を改めてお願いします。

補植用余り苗は作業が終わったら直ちに処分しましょう

補植用余り苗は、ほ場にあるだけで伝染源になります。補植作業が終わり次第ただちに土中に埋没させるなどして処分します。



補植用苗で葉いもち発生
引用：みんなの農業広場より

◎葉いもち予防のための箱処理剤や側条施用を行っていない場合は、オリゼメート粒剤を散布します。

散布適期：6月15日頃（12～18日）の散布が目安です。（10a 2kg）

但し、箱処理剤を施用した場合は散布の必要はありません。

…もしほ場内でいもち病発生を見つけたら

持ち込みやほ場の余り苗などからの伝染を早期に発見した場合は、予防剤と治療剤の混合剤（ブラシン剤）の茎葉散布を行います。また、営農センターへもご相談ください

病害虫の発生にも注意しましょう

病害虫防除所から発表された予報によると、イネミズゾウムシとイネヒメハモグリバエの発生量が多いと予想されています。箱処理剤を使用していないほ場では稲をよく観察し、発生が認められる場合はトレポン剤などを散布して防除を行います。

そのほかの病害虫も局所的に発生する可能性がありますので、発生した場合は営農センターへ相談し有効な薬剤を散布しましょう。

●今年は異常気象に対する対策の確認をしましょう。

冷害が予想される場合

1. 天気予報をこまめにチェック

冷害には「やませ」による障害型冷害と曇雨天が続き「生育の遅れ」による遅延型冷害の2種類があります。天気予報をチェックし気温が低くなると予想される場合、生育初期は保温のため昼間止め水とし、昼間の日射を水温、地温上昇に利用しましょう。入水は早朝に行い、用水と圃場水温の較差が最も小さい時に行うのが有効です。

2. 中干しは早めに

幼穂形成期以降は低温の影響を直接受けるので、7月初旬には中干しを終了させ田んぼにかん水をします。

3. 深水管理をし幼穂を保護しましょう

出穂の22～25日前から幼穂の形成は始まります、それ以降に日平均気温20℃以下の低温や最低気温が17℃以下が予想される場合は水深10cm以上の深水で幼穂の保護を図りましょう。

また、減数分裂期（出穂10日前頃）に低温が予想される場合は水深15cm以上の深水にします。

4. いもち病に要注意

冷害の年はいもち病の発生が多くなる傾向にあります。苗段階からいもち病防除を徹底し、発生が確認された場合は直ちに治療剤（ブラシン等）を散布し各営農センターにお知らせください。



葉いもち病斑

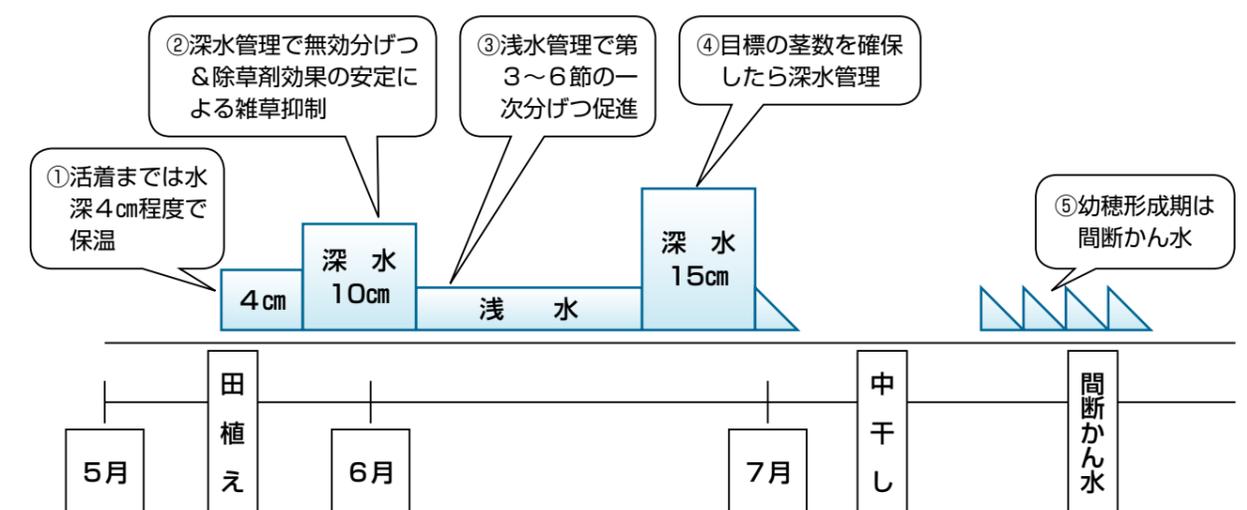
分けつ促進・雑草防除は「水管理」で万全に!!

今年は寒暖の差が激しく、数日ごとに天気が変わり温度変化も激しい傾向にあります。4月の急激な突風の影響や、不安定な天候により育苗管理や耕起、代かき作業に苦労した方も多いと思います。田植え作業もいよいよ本格化し、初期生育の確保と雑草防除の徹底をお願いします。

●田植え後の水管理

- ① 稲が活着するまで概ね4～5日ほどかかります。田植え直後は活着するまで水深4cm程度とし、保温効果を高めるため、できるだけ湛水状態を保ちます。
- ② その後、10cm程度の深水管理を1週間ほど行い、初めに発生する穂にならない分けつを抑えます。
- ③ 深水管理を終了後は、浅水で昼夜の温度差を大きくして分けつ発生をうながします。
- ④ 目標の茎数を確保したら無効分けつを抑えるため、15cm程度の深水管理を1週間ほど行い、その後中干を行います。
- ⑤ 中干後は間断かん水とし、冷害の発生が予想される場合は深水管理を行い幼穂を保護します。

田植え後の水管理例



●側条施肥田植機で施肥忘れの場合

条合わせ等で施肥を忘れた場合、田植え後1週間ほどで葉色に差が現れだします。確認後、ただちに施肥されていない部分に、追肥を硫酸やおばこ専用14-14-14等の速効性肥料で行います。

特に、除草剤散布は施肥を行ってから散布となりますので、速やかに施肥を行い、その後ただちに除草剤を散布します。

● 除草剤を効果的に使用しましょう

今年は気温が高い日が続いており雑草の生育も早まると予想されます。雑草が残ってしまうと養分競合による生育不良や斑点米カメムシ類による被害により収量、品質が大きく低下してしまいます。

確実に除草剤を効かせ雑草の無いきれいな田んぼを目指します。

雑草は代かき直後から活動を開始します。初中期一発剤はノビエでラベルより1葉期早く散布すると最も防除効果が高くなります。早ければ代かき後約10日でノビエは2葉期に達するため、除草剤の散布は代かき後10日を目安に行う必要があります。

また、代かきと田植えの間をできる限り短くすることにより余裕をもって除草剤を散布することができます。

除草剤は散布後、土壌表面に処理層を作ることで効果を発揮します。除草剤を散布する際は水尻をしっかり止め、ほ場にはできる限り水がたっぷり張ってある状態にします。

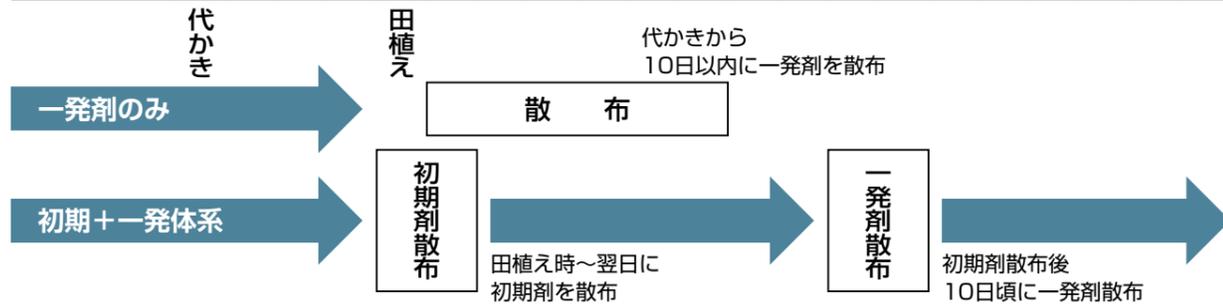
除草剤散布後は7日間は入水、落水を行わず田面に処理層をしっかりと作りましょう。水持ちの悪いほ場など、やむを得ず入水する場合はゆっくりと水を入れるようにします。

除草剤散布前にカナ（藻類、表層剥離等）が発生してしまった場合は、水の入れ替えやモゲトン粒剤を散布するなどして、カナを無くしてから散布します。

除草剤散布適期例と雑草葉齢進展の目安

- ・ 除草剤散布は草が見える前に散布することが基本です。
- ・ 気温状況により、葉齢進展スピードが早まる場合があります。

代かき後日数	防除可能葉齢		効果限界葉齢		防除困難葉齢	
	0	1	2	3	4	5
ノビエ						1.0葉
ホタルイ						1.0葉
コナギ						1.0葉
アゼナ						1.0葉



除草剤の効果には得意な雑草、不得意な雑草があります。次ページの表を参考に自分のほ場にどのような雑草が多いのかを考慮して散布する除草剤を選びましょう。

前年雑草の量が多かったほ場やオモダカ、クログワイなどの発生期間が長い雑草などは一発剤散布だけでは後発の雑草に対応しきれませんので、初期剤との体系処理をオススメします。それでも残草してしまった場合は、残った草種に合わせた有効な中後期剤を散布しましょう。

区	品名	使用時期・効果・特徴等	
本田 初中期一 発 除 草 剤	カチボシ1キロ粒剤75	移植直後~ノビエ2.5葉期	SU抵抗性雑草、オモダカ、クログワイ等の多年生雑草に効果的ノビエの発生を長期間抑制
	ウィナー1キロ粒剤75 ウィナーフロアブル	移植直後~ノビエ2.5葉期	問題雑草（ホタルイ、コナギ、アゼナ）に効果大ノビエの発生を長期間抑制
	コメット1キロ粒剤	移植直後~ノビエ2.5葉期	SU抵抗性雑草に効果的オモダカ、クログワイの塊茎形成を抑制
	トップガン250グラム	移植直後~ノビエ2.5葉期	SU抵抗性雑草に効果的 無人ヘリ散布可能
	クサトリ-DXジャンボH	移植後3日~ノビエ2.5葉期	SU抵抗性雑草に効果的
	ベンケイ豆つぶ250	移植後3日~ノビエ2.5葉期	SU抵抗性雑草・難防除雑草に効果的 畦畔からの侵入雑草を抑制 ガンガンの後継剤
	アツパレZ1キロ粒剤	移植直後~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草・難防除雑草に素早く効果を発現 パッチリの後継剤
	ベンケイ1キロ粒剤	移植直後~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草・難防除雑草に効果的 畦畔からの侵入雑草を抑制 ガンガンの後継剤
	トップガンGT1キロ粒剤75	移植直後~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草に効果的
	トップガンフロアブル	移植直後~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草に効果的
	アピロキリオMX1キロ粒剤75	移植直後~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草に効果的 残効が長い
	月光1キロ粒剤	移植直後~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草に効果的 ノビエに対する残効が長い ※浅耕、植え戻りの悪い圃場は葉害の懸念あり
	メガゼータ1キロ粒剤	移植直後~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草・難防除雑草に効果的
メガゼータフロアブル	移植後5日~ノビエ3葉期	SU抵抗性雑草・難防除雑草に効果的	
アクシズMX1キロ粒剤	移植後7日~ノビエ4葉期	SU抵抗性雑草、オモダカ、クログワイの塊茎形成を抑制	

豆つぶ、ジャンボ、液剤、フロアブル剤の使用法

- ① 田面の均一が図られていること。
- ② 必ず水深5cm以上で散布する。隅の稲が水にくぐっても1~2日後には葉先が出るくらいまで水を入れる。
- ③ 風がある時は風上側には多めに散布し風下側には少なめに散布し10a当たり散布量を守る。
- ④ 風下にカナや藻がたまっている場合は、散布後ただちに背負い動力散布機等の風力でカナ層を割って薬剤拡散を促します。

本田 中後 期 除 草 剤	クリンチャー1キロ粒剤	移植後7日~ノビエ4葉期または移植後25日~ノビエ5葉期 (1.5kg散布)
	クリンチャーEW	移植後20日~ノビエ6葉期 ノビエ専用剤 殺草速度が早い
	クリンチャーバスメ液剤	移植後15日~ノビエ5葉期 雑草増殖初期 (草丈10cm程度)
	ヒエクリーン1キロ粒剤	移植後15日~ノビエ4葉期 遅効的だがノビエに卓効を示す 直播可
	ヒエクリーンバサグラン粒剤	移植後15日~ノビエ4葉期 幅広い雑草に効果あり 落水散布後入水が必要 直播可
	バサグラン粒剤・液剤	移植後15日~55日 落水散布 広葉雑草専用剤 殺草速度が早い
	マメットSM1キロ粒剤	移植後15日~ノビエ3.5葉期まで 移植後30日まで
	フォローアップ1キロ粒剤	移植後15日~ノビエ5葉期 湛水散布 効果発現が遅効的
アトトリ1キロ粒剤	移植後20日~ノビエ4葉期 収穫45日前湛水散布オモダカ、クログワイ、シズイに効果高い	